

感性を、研ぐ。

金沢大学

人間社会学域
学校教育学類

附属高等学校



学校行事

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
・入学式 ・遠足	・中間テスト	・総体 ・運動会	・期末テスト ・文化行事	・夏休み ・総文	・教育実習 ・開校記念祭	・中間テスト	・現地学習 ・新人大会	・期末テスト ・冬休み	・共通テスト(3年)	・如月祭	・学年末テスト ・卒業式



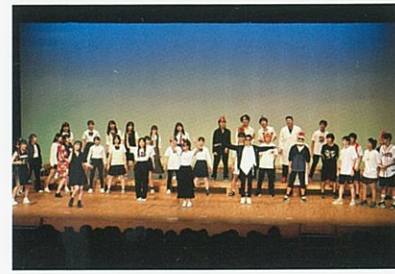
遠足

クラス替え後の最初に催される行事で親交を深める大切な機会。行き先や行うレクを生徒が自由に決めることも出来る。

一番の見どころは3年生有志による応援団。伝統を重んじ、それでいて時代を感じさせる見事な応援が披露される。



運動会



文化行事

昨年度は、常識を覆すクラス対抗の歌のイベント、「歌の祭典」となり、踊る、コスプレをする、校長先生を壇上に呼ぶなど突飛なアイデアが飛び交い、大いに盛り上がった。

2年生が主体となる初めてのイベント。部活動ごとに出店を設置でき、毎年個性的な店がオープンする。2年生による歌舞伎が特に魅力的。演者からメイクまで全て2年生で完結する本格的な一幕を御覧あれ。



開校記念祭



スポーツ大会

主な競技はサッカー・バレー・バスケ・卓球の4つ。学年に関係なくトーナメントを行う形式で、たびたび上級生への下剋上が起こる。観戦も体育館二階が完全に埋め尽くされるほど人が集まり、一種のお祭り騒ぎである。

1年生が企画から運営まで全て自力で行う最初のイベントであり、受験勉強に疲れる3年生を癒すため様々な楽しめるイベントを催す会である。

如月祭



部活

運動部	文化部
野球部	吹奏楽部
バスケットボール部	STA (科学部)
バレーボール部	茶道部
テニス部	囲碁部
バドミントン部	将棋部
卓球部	演劇部
ハンドボール部	クイズ研究同好会

(その他学校で認められた活動)



夏服は自由

自由服登校は生徒のモチベーション向上に大きく寄与しているといっている。日々のたゆまぬ努力から容姿に磨きがかかっていく生徒も多い。



そんな中奇行に走る生徒も時折観測されるが…冬服の自由化も生徒会主体で進められており、施行について生徒間での意見交流が頻繁に行われている。



個性豊かな先生と生徒

生徒が個性的ならば先生も個性的であろう。生徒に多くの知恵を与えたいという熱が端々から感じられ、それでいてとても人間らしい面を見せる二面性が生徒を魅了してやまない。



連絡は“SLACK” 課題は “アカンサスポータル”へ

ペーパーレス化を進めるため連絡事項はアプリ「Slack」に届き、課題の一部は金沢大学のwebページ「アカンサスポータル」で提出できる。オンラインで可能な作業が多く非常に便利だ。

スマホを用いた授業

文明の利器は利用するためにある！気になった単語や些細な疑問等はスマホで検索することが推奨されている。スマホに呑まれるのではなく、スマホと共に賢くなるのだ。



探究

各ゼミの研究テーマ

教育	スポーツ文化
文学	医学部探究
歴史学入門	オノマトペの日英比較
現代アート	英語教育
計算科学入門	社会科学
スポーツ科学	自然科学

自由にテーマを設定できるゼミもあります！



学びの共有の日



論文の成果発表を外部の来客を招いて行う日。ポスターセッション形式で興味のある他生徒の発表を見に行くこともでき、互いの知を深め合い研究への糧とする重要なイベント。

PC室の大改造



以前はPC室で情報科の授業を行っていた。昨年度からは一人一台PCとなったため、旧PC室のパソコンを廃し、



モニターを机で取り囲み多用途に対応できるモニタールームに大変身！自習室としての活用もでき、さらなる改造も待っていると…

先生との距離が近い！



日夜議論を交わす教員と生徒たち。学問について共に考えを深め合い、時に深い造詣に心を打たれる。その有り様は学友のそれであり、また距離の近さが生徒たちの学力向上の後押しとなっているのだ。

キャッシュレスな自動販売機

喉の渇きも硬貨いらず。多種多様な電子決済に対応しており、生徒はスマホ一つで生活が可能に。ただし人気飲料は売り切れが早いようだが。



高田 美央

私は3年間通して、勉強や様々な課外活動に力を入れ、それを活かしてアメリカの大学への進学を実現することが出来ました。附属高校で高校生活を過ごしていなければ、この選択をしていなかったと思います。

附属高校の特徴として、勉強や課外活動を頑張っても冷やかされたり馬鹿にされたりしないというのがあります。これらに力を入れたい人にはうってつけの環境である一方で、私は自由時間のほとんどをそれらに時間を費やすようになってしまいました。地域活性化、模擬国連、新聞編集局、応援団などに打ち込み充実した気でいました。しかし、それらと勉強で自分を追い込みすぎて疲弊し自習室に行くのが怖くなって塾をやめ、授業を聞かない、あるいはそもそも授業に行かないことも増えました。この状態は良くないと思い、一度勉強や切迫した義務から離れ、自分を見つめ直そうと考えました。そこで、日本のような高難易度の学力試験がなく、課外活動やエッセイが評価される米大進学を考え始めました。

その選択のおかげで、3年生になってからは学力試験に向けた勉強時間を他のことに使うことができるようになりました。言語学の勉強をゆるゆると始めてみたり、何度も旅行をして見たことがないものを見たり、現代アートに手を出したりしました。また、大学に提出するエッセイ執筆を通して自己分析が深まったことで、がむしゃらに勉強や課外活動に取り組むのではなく、自分が本当に充実していると思うことに時間を使うことができました。

海外進学をする人は学年に1人しかいませんでしたが、英語の先生は海外に進学することに対してとても肯定的で、自分の選択にとっても自信を持つことができました。また、海外進学に必要な奨学金申請や煩雑な書類の手続きに対して、大変献身的なサポートをいただきました。附属高校は進路選択の多様性を認めていて、恵まれた環境だと感じています。

附属高校での生活は楽しいことばかりではなかったけれど、進路選択を含め、自分に必要な成長ができたと思います。

青野 有佳

その人はどこにでもいる普通の子供高生でした。ただ少し人よりも、本を読むことが好きでした。そんな彼女に、高一の夏、転機が訪れました。国語の先生が、読書感想文を書かない代わりにコンテストに出すから童話を書いて良いと言ったのです。彼女は童話を書くことに決めました。なぜならそのコンテストで賞を取れば図書カードをもらえたからです。賞を取れるつもりなんて全くなかったけれど彼女は童話を書きました。そして、彼女は創作することの楽しさに出会ってしまいました。夏休みが終わってからでも彼女は創作することをやめませんでした。文芸部のない環境で彼女は物語を書き続けました。高一の冬、夏季課題がコンテストで銀賞を取ってからはますます執筆に拍車がかかりました。

「あなたはこれから小説で賞を沢山取って、推薦で大学に行ったらいいんじゃない？」

親しい先生からの一言が、彼女の背中を押しました。そして彼女は高二的夏に三つ作品を書きました。そして、そのうちの一つが、小説甲子園で日本一を取りました。彼女は東京の某出版社で賞をもらいました。初めての東京。初めての経験。この日のことは彼女の高校生活に鮮やかな彩りを添えました。

高三になってからも執筆の手は止めませんでした。金沢大学が設ける超然文学賞。そこでどうしても彼女は最優秀賞を取りたかったのです。そこで入賞すれば、超然文学選抜という推薦入試で金沢大学に入学することができました。いつかの先生から言われた助言。それを叶えるために彼女は作品を磨き上げました。そして無事、彼女は超然文学賞で最優秀賞を取ることができ、超然文学選抜で大学に入学することができました。

彼女がこんなにも小説に三年間を投じることができたのは、自主自律の名の元に、個性を認め、自由な時間が多かった附属高校ゆえでした。膨大な課題や文武両道を課し、部活に半ば強制的に参加させられるような進学校ではこうはいかなかったでしょう。

あなたも彼女のように、この高校で唯一無二の高校生活を送ってみませんか？お待ちしております。

無限の可能性

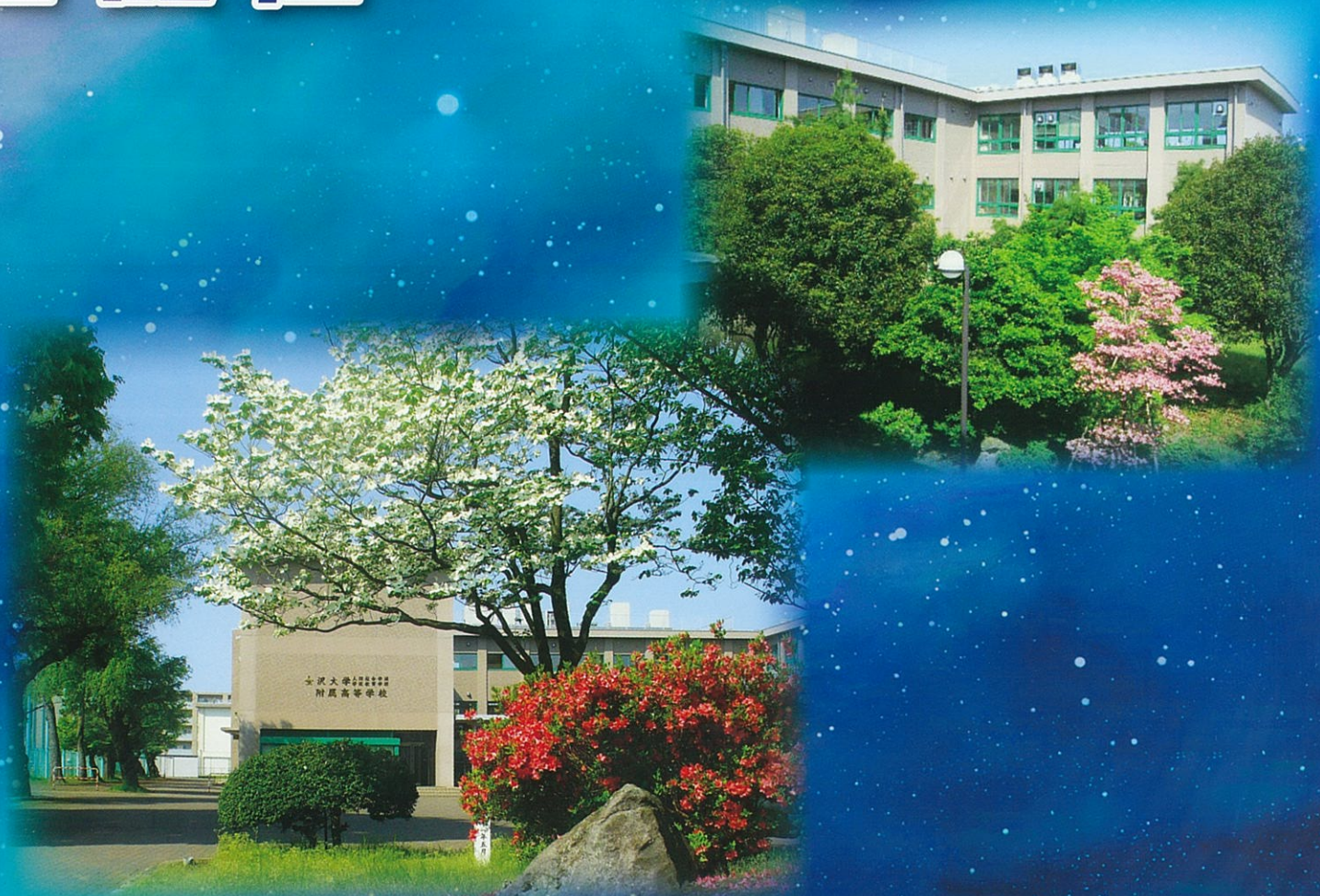
部屋 匠

私は小学1年時から自由研究としてイモリの生態研究を行っています。小学6年時にイモリをおびき寄せる「イモリに捧げる曲」を自ら作曲し、効率よくイモリを集めて捕獲することに成功していましたが、なぜ集まってくるのかは明らかになっていませんでした。附属高校に入学してから、私はイモリが「イモリに捧げる曲」を好む理由を解明することを目的として、イモリと音との関係性について研究を行いました。

まず、イモリの詳細な行動を調べるにあたって、イモリのような小型生物では大型生物とは異なり、記録計を取り付けることが困難なため、私はイモリの行動を詳細かつ定量的に評価する「画像認識による行動観察システム(BOS-IR)」を独自に開発しました。高校1年後半からは金沢大学グローバルサイエンスキャンパス(GSC)に参加し、「イモリに捧げる曲」では短調よりも長調の曲を好み、イモリの行動が活発になる傾向があることやイモリが「イモリに捧げる曲(の長調)」を好む要因は、好きな音ではなく好きなメロディーであることを明らかにしました。

高校2年時に挑戦した高校生・高専生科学技術チャレンジ(JSEC)では、GSCで得た有意確率を示し、また、BOS-IRを改良しイモリの睡眠時間やエサに対する反応も調べ、イモリの睡眠時間は1日あたり5時間程度で、明所と暗所では大きな差はなく、イモリは嗅覚よりも視覚を使ってエサを感知しており、暗所でも目が見えていることを明らかにしました。このJSECでは339件の応募の中から上位賞の花王奨励賞を受賞でき、さらに、日本生態学会では高校生ポスター最優秀賞を受賞しました。このBOS-IRを用いることで睡眠時間測定などを効率よく行えることが確認でき、他の小型生物の明所・暗所での行動評価への応用が期待できます。

このように高校生活の多くをイモリの研究に費やしましたが、生物の研究者を目指す私にとっては有意義な高校生活で、附属高校の先生方に感謝しています。高校生活で得られた貴重な経験を活かして今後も頑張りたいです。



3年間を終えて

「自主自律」という、本校の活動方針の要となっている校風にふれ、自分と真摯に向き合う意義を学びました。

学習面では宿題が少ない反面、自分の管理下での勉強が求められます。私は学習計画の失敗から、より適した勉強方法を認識することで今では計画を遂行することができています。また進路で悩んだ時期にも、自分は何に関心があるのか己を見つめ直し、前へ進めたと感じます。参加したボランティアの経験から、大学で学びたいことを見出し、進路を見据えることができました。ボランティアの自主的な参加には、まわりの志をもったたくさんの仲間が存在も大きかったです。

自主自律の精神は今後も私の糧になることと思います。みなさんも本校で自分探しをすればきっと将来を豊かにしてくれるカギが見つかるはずです。

野田中学校卒 五十嵐りえる

僕に大きな成長の機会を与えてくれたのは、学校行事でした。附属の学校行事は小規模ではありますが、どこよりも自由だと思います。



特に開校記念祭では、生徒が0から企画を生み出し準備・運営まで行います。僕も部活動の模擬店責任者をさせていただきましたが、その中で先生方は制約を課すことはなく陰で支えてくださり、友達との話し合いや準備の中で協働性や自主性を磨くことができました。何より、自分たちの出した案が実現し、それを楽しんでいる方々の様子を見たときの感動は、今でも忘れられません。

このように、附属高校は自分のやりたいことが実現できる学校です。自分の意思や志を持って行動したいという方にはぴったりの学校だと思います。ぜひ附属高校に来て、やりたいことを叶えてください。

野田中学校卒 九十九勇太

私が附属高校に入学して初めに驚いたことは学習意欲が高い人が多いことです。公立中学校出身の私にとって、このような環境はとても刺激的で楽しかったです。みんなそれぞれ得意なことや苦手なことがあって、それを認めて補い合っているのが附属高校の良さだと感じています。

また授業はとても個性的なものが多く、ペースは少し速いですが、先生オリジナルのプリントなどを使い、とても面白くてわかりやすい授業が多いです。ペアワークやグループでの話し



合いが多く、仲間と意見交流することでより学習したことが定着します。

附属高校で高校生活を送ったことで勉強面だけでなく精神面でも成長できる3年間になったと感じています。みなさんも迷ったらぜひ附属高校に来てみてください！

旧小將町中学校卒 高澤 真由

附属高校の特徴として自分の目標や挑戦を助けてくれて、応援してくれる心強い仲間や先生が身近にすることが挙げられます。

私は3年間競技かるたの活動を行ってきましたが、附属高校に競技かるた部は存在していません。そのため自分から積極的に行動し、友達と頼み込んで和室を借りて練習したり、大会に参加したりすることで多くの貴重な時間を過ごすことが出来ました。その中でも全国高等学校総合文化祭に3年間連続で石川県代表として参加したことが一番思い出に残っています。引率に来てくださった先生方や一緒に参加した友達、応援してくれた附属の生徒たちの支え無しでは達成できなかったことが沢山あります。

部活にこだわらず、それぞれが色々な分野で挑戦を続けており、互いに切磋琢磨し合える関係は一生ものだと思います。最高の仲間たちと共に成長できる3年間を送ってください！

西南部中学校卒 中田陽南子

附属高校は自主自律の校訓通り、生徒自身が自主的に学び、行動する機会がたくさんあります。その例の一つとして、多くの行事が生徒主導で行われることが挙げられます。生徒一人一人が自分の役割に責任を持ち、他の生徒と協力しながら準備をすることで、本番では大きな達成感を得ることができます。また、行事を通して、コミュニケーション能力や計画性など、社会に出て役立つスキルを実践的に学べる点は魅力的です。私は、文化祭の時に、業者の方に協力してもらった機会があったのですが、先生以外の大人と連絡を取ったり仕事を依頼することは初めてで、貴重な社会経験になりました。

ぜひ、附属高校で、様々なことを積極的に取り組んでみてください。

金大附属中学校卒 中森 愛里

本校の特色である「自由」には責任が伴います。私は3年間を通して自分の行動の重さを知り、より優れた自分になるための試行錯誤を経験しました。

日々の学習や挑戦では上手くいかないことも多々ありました。ドローンショーでの失敗や研究の発表で厳しい指摘を受けたことは今でも鮮明に覚えています。それらを乗り越えることができたのは、この学校の「自由」が伴う開かれた雰囲気や互いの個性を認め合うことや、先生への気軽な相談、さらなる挑戦を容易にしていたからです。

きっと附属高校は皆さんにとっても自分を見つめ直し、その可能性を大きく伸ばす場所になるに違いありません。

金大附属中学校卒 藤村 航平

学校住所および地図



交通手段：J R金沢駅から北鉄バス、香林坊経由金大附属学校前・自衛隊前行き



金大附属高校
公式マスコットキャラクター
「ふぞっくん」



金沢大学人間社会学域附属高等学校

〒921-8105 石川県金沢市平和町1-1-15
TEL.076-226-2154 FAX.076-226-2150
Email:Kd-fuzokuhs@ml.kanazawa-u.ac.jp
<http://partner.ed.kanazawa-u.ac.jp/kfshs/>